

## 白金志田町倶楽部明治学院大学学生チーム

2008年4月から一緒に活動をするようになった白金志田町倶楽部（以下、志田町倶楽部）。出会ってから約8ヶ月、白金志田町倶楽部学生チーム（以下、学生チーム）の活動の報告をする。

### ○活動の経緯

明治学院大学は東京都港区白金台にキャンパスがあるが、多くの明学生が抱く白金という町のイメージは“セレブ・シロカネーゼ”が住んでいて、ご近所付き合いはないというものではないだろうか。しかも、白金にある明治学院大学に通っているにも関わらず、多くの明学生と白金地域の方々との交流はほとんどない状態だった。そんな中、李コーディネーターから白金地域の方々が集う懇親会のお誘いを受けた。その時、初めて志田町倶楽部の方々とじっくり話すことが出来、お互いに対するイメージの差を実感したのと同時にその差を埋める事ができた。そして明学生の立場からでしか出来ない地域のための活動を今後展開していくこと、それにあたって志田町倶楽部の皆さんと協働していくことになった。

### ○活動内容

私たちは主に、志田町倶楽部が白金地域で主催しているイベント（シロカネストリートフェスタ等）から日常的に行われる活動（防犯防火パトロール等）まで、学生としての立場で関わってきた（詳しくは本書「ボランティアファンド学生チャレンジ賞」を参照）。活動を通して感じたのは、活動場所が大学から徒歩圏内であること、授業時間の合間やボラセンで出会った学生に対して「これから活動しに行こう」などと誘いやすかったことなど、学生が参加しやすい条件が整っていたように思う。活動の幅も志田町倶楽部が地域の活動というだけでなく分野を問わない広い活動を展開しているために、学生の興味を引きやすく、何よりも志田町倶楽部の方がとても学生を理解し、尊重してくださったおかげで学生の側も出来る範囲で活動が出来たのではないかと思う。

### ○活動を通して

活動を通して学んだことの一つが、“時間感覚”である。毎日活動に展開がある志田町倶楽部の活動では今までの学生の時間感覚で活動していたら間に合わなく、ついていくので必死だったように思う。また、忙しいはずの地域の方が、限られた時間の中で、志田町倶楽部のために、少しずつ自分の出来る事を行い、支えあっていることが志田町倶楽部の原動力だと感じた。

この活動は今までにない、学生×地域×大学の新しい活動のムーブメントになっていく可能性があると思う。閉じこもってその中で完結した活動を行うのではなく、学生×地域×大学の3者が本当の意味で協力し、それぞれに良い効果をもたらす活動にしていくために、うわべだけの議論ではなく、お互いの現状を相互に理解した上で、展開していくことが大切だと思う。また今後は、活動への参加学生の増加が考えられるが、その際に学生チームは、長期的な視点から志田町倶楽部や大学の協力して下さる方に対して失礼のないよう、参加学生との連絡など、形式的な仕組みを考えていく必要があると思う。

（心理学部心理学科3年 山田 純平）